

Tejo 河は海の如く前面に拡がり、それに面して Jose I の堂々たる騎馬像、さらにその背後を城壁の如き大建物 (Ministerios) がとり囲む様子は誠に壯観であった。

さらにそれより坂を上ってムーア人の古い城跡, Castelo de S. Jorge の上に立って美しいリスボンの市街を眺め、時の立つのを忘れた。

Sintra 市への観光バス旅行の帰り Cascais から Estoril の海岸の景色を見たが、海岸に沿ってつくられた美しい花咲く公園と葉のおい繁った棕櫚の並木と立派な道路とが思い出されて懐しい。

この会議の最終日 (9月16日)、バス10数台に分乗して Salvatera de Magos の町に向った。Tejo 河に沿って上ると陶磁器、石油精製、電気機械等の工場がところどころにある。しかしこれらの建物はいずれも煉瓦またはコンクリート建の美しい建物であって、日本の工場地域に見られるような汚い木造の建物はほとんどない。道の両側にはコルク樹、松、ユーカリ樹などが枝を張り全く南国風景である。ようやく2時間位かかって目的地の Salvatera につく。道の両側には大勢の男女老幼並んで花火を上げての大歓迎振りである。また騎馬の葡国服装を着た連中も大勢並び、少女合唱団と共にスバラしいポルトガルの絵巻物が展開された。



第10図 Salvatera de Magos の町民たちの歓迎陣
Typico Ribateiano というレストランでは山の如くつまれたポルトガル料理、ポルトガル舞踊の接待があり、内庭では尖がり帽子のポルトガル帽を皆かぶって子供の如く喜んだ。さらに闘牛場に入ってポルトガルの闘牛を見る。騎乗の闘士が巧みに馬を駆けつつ猛牛の背スジに向かって小さい槍を打込むのであるが、なかなか呼吸が合わないときできない。その間赤い布をもつ人達によって牛の闘志はますますもり上げられてくる。一応4、5本の槍を受けると次に8名の徒士が出て空拳にて牛と格闘する。これにてショーは終り、牛はここでは殺されない。これを見て思ったより殺伐の感じのしないのは、ポルトガルの地にあることによるものであろうか。(1957.3.1)

森脇義雄著 高周波帯域増幅器

共立出版株式会社発行通信工学講座第1, 2巻 (1955-03, 04), A5版212ページ

本書は高周波帯域増幅回路の定常特性および過渡特性について著者が研究した結果を中心として系統的に述べたもので、従来知られていなかったいろいろの特性がこれによってはじめて明らかにされたといえよう。

定常状態の特性としては、振幅および位相の周波数特性を簡単な単一回路から始めて、最も一般的な組合せ回路にいたるまで詳しく説明してある。従来個々の回路について断片的に取り扱われていたために異なる回路の比較ができなかったが、本書では1段当りの増幅度偏差、相対増幅度、選択度等を考えることにより種々の回路の比較を可能ならしめ、設計に大きな便益を与えることができた。なお多段増幅器については最も一般的な組合せ回路、その特別な場合としてのm離調回路、m段結合回路について一般論を展開してある。各回路について設計例を示してあるのも親切な書き方であるといえよう。

増幅回路の過渡特性としては、これまできわめて特殊な回路について計算が行われたのみであったが、本書では任意の回路の過渡特性を与える式を求め、しばしば用いられる回路については単位関数で変調された搬送波入力に対する出力波形の包絡線を計算してある。これにより矩形波で変調された搬送波入力に対する出力波形、出力の最高値と帯域幅・パルス幅との関係、信号対雑音比、シャ断特性、振幅成長特性等を各種の回路について比較して示し、また離調が振幅成長の速さ、細部の再現、実効帯域幅にどんな影響を与えるかを論じてある。なお安定度、信号の伝はん時間についても主要な回路について計算してあり、パルス波形の増幅特性を知る上に参考になるところが多い。(著者は、本所第3部、教授、工博)